

発見! 東北グルメ

No.7 開花屋食堂

南三陸町歌津地区、国道45号線の道沿いに、鮮やかな花の絵で彩られたお店はあります。オープンは昨年3月。地元の方の「食事をする場所がほしい」「みんなで集う場所がほしい」という声を受けて、支援活動に入っていた関西の飲食店経営企業が立ち上げました。店内は地元の方で賑わいます。目玉料理は、「からあげ定食」です。ごろごろした特大のから揚げを頬張れば、ジューシーな肉汁が口の中に広がります。山盛りの中ごはんもすすみ、べろりと平らげられます。お値段650円。他にも、ラーメンや様々な定食を楽しめます。

TEL : 0226-36-9380
住所 : 宮城県本吉郡南三陸町歌津字舟沢22-3
営業時間 : 11時~15時、17時~22時
※木曜定休日



日間の作業で仮植した苗の総数は350株。全ての苗を仮植し終え、見事目標を達成することができました。

また、今回から、作業終了後にプロジェクト参加者と

実際にトマトの生産過程の一部に携わったことで出てくる様々な意見が、参加者の方々から小野さんへ寄せられました。この場で寄せられる消費者目線のアイディアは、小野さんが事

業を考える上での大変なヒントになります。参加者のアイディアが活かされた商品が今後生まれるかもしれません。今回仮植したトマトが成長し、収穫されれる時期に向け、夢は膨らみます。

トマトの仮植お手伝い

農業で被災者雇用応援プロジェクト#15



1月12・13日に第15回農業で被災者雇用応援プロジェクト(南三陸・歌津地区)を行いました。派遣ボランティア数は17名。そのうち半分はリピーターの方々でした。

今日は小野花匠園で、トマトの仮植作業をお手伝いしました。トマトは、種をまいてから約1か月が経過すると成長が進み、苗の間隔が窮屈になります。仮植とは、それを防ぐために、苗を一本一本、格子のポットからや



や大き目なポットに植え替えていく作業です。

復興応援団だより

2012.2.1 / N011
発行元 :
一般社団法人
復興応援団
広報チーム
022-393-9331

復興応援団とは

参加者の方々は初めての作業に最初は手間取っていましたが、それぞれが役割を分担し、効率よく作業するための工夫を積み重ねながら順調に作業を進めています。

小野さんがトマトの販売戦略について話し合いをする場が設けられました。復興応援団のプロジェクトには30~40歳代の働き盛りの世代の参加が大変多く、その立場からの知恵を小野花匠園の事業にも活かせないかと始めた新機軸です。

実際にトマトの生産過程の一部に携わったことで出てくる様々な意見が、参加者の方々から小野さんへ寄せられました。この場で寄せられる消費者目線のアイディアは、小野さんが事

業を考える上での大変なヒントになります。参加者のアイディアが活かされた商品が今後生まれるかもしれません。今回仮植したトマトが成長し、収穫されれる時期に向け、夢は膨らみます。

「支え合いネットワークづくり」事業では、今後の復興公営住宅の生息地主や集地活動のと復興のための各市町村東北が立派に復興することを目指していきます。

「ボランティア」事業を実施するのと、被災者が地元の方々と一緒に地域の手組む地元再建アカシ派は、今後も生み出し、アコトに復興を支えます。

多賀城の仮設で工作教室

1月27日、多賀城

中学校グラウンド応急仮設住宅と山王市営住宅跡地仮設住宅で「工作教室」が開かれました。開催しているのは、埼玉県春日部市役所職員の山下さん。月一回、材料を持参して多賀城の仮設を訪れ、子ども達と交流しています。震災後、1年半も続く教室を、毎月子ども達が楽しみ

にしています。

この日は、あたり一面が振り続けた雪に包まれていました。

「子どもに雪遊びがいいか、工作がいいか聞いてみましょう」

という工作教室代表山下さんの声に、子どもの意見を一番に取り入れる工作教室の姿勢を感じます。山下さんの問い合わせに、子どもたちには

合戦に夢中になり、ひたすら雪玉を投げます。女の子チームには雪玉を作る係もあって、「早く早く！」という声に応えるべく、作る係も必死に雪玉を作つては渡し

ました。相手チームはたくさん雪玉をひたすら雪玉を投げます。女の子チームには、大人も敵わないと喜んでいました。相手チームはたくさん雪玉を当てられていきました。可愛くて強い女の子には、大人も敵わないと喜んでいました。

山王ではたくさんのお子さんが集まっています。原発事故による風評被害の影響を受けていました。大手スーパーの販売ルートでは、消費者に届く前の流通段階で商品が止められることがあります。

阿部さんは震災の前年、南三陸町と石巻市で水産会社を創業。津波は、阿部さんの会社と自宅を飲み込みました。震災前から懇意にしていた水産会社のグループから、千葉県銚子市での仕事のオファーを受けるも、一步を踏み出せずにいました。「ここにいても仕事はむづかしい。

「将来への不安や迷いはあります。始めたことなので必ず成功するように、みんなが上手く立ち行くように頑張らなくてはと思っています」

おらほのヒト



原発事故による風評被害の影響を受けていました。大手スーパーの販売ルートでは、消費者に届く前の流通段階で商品が止められることがあります。

阿部さんは震災の前年、南三陸町と石巻市で水産会社を創業。津波は、阿部さんの会社と自宅を飲み込みました。震災前から懇意にしていた水産会社のグループから、千葉県銚子市での仕事のオファーを受けるも、一步を踏み出せずにいました。「ここにいても仕事はむづかしい。

三陸の地形を象徴する、海から近い森の中、南三陸町歌津管の浜地区に、地元の海産物や農産物を扱う直売所「みなさん館」はあります。地元の農業者や漁業者が持ち寄ったとれたて野菜やワカメ、色とりどりの切り花、手工芸品が商品棚に並びます。出品者の顔写真とメッセージが添えられ、作り手のぬくもりが伝わり

域の一人filed阿部富宏さん（55）||南三陸直売所「みなさん館」

ひとりが持ち寄ったものを持ち寄る場として直売所が考えられました。人が集まるところで、産業の振興やコミュ

ニティの創出につながればという思いがあつたんですね

自分で直接消費

者に伝える場が必要でした。それは、1人では微力でも、み



で、このまま町を離れても良いのかという気持ちがあつたんです。直売所の話をいただいて、同じ多賀城中学校では、女子の子チームと山下さん率いる相手チームとの雪合戦になりました。女子の子は雪合戦に夢中になり、ひたすら雪玉を投げます。女子の子チームには雪玉を作る係もあって、「早く早く！」という声に応えるべく、作る係も必死に雪玉を作つては渡しました。相手チームにはたくさん雪玉を投げます。女子の子チームには、大人も敵わないと喜んでいました。相手チームにはたくさん雪玉を投げます。女子の子チームには、大人も敵わないと喜んでいました。

山王ではたくさんの子どもが集まっています。原発事故による風評被害の影響を受けていました。大手スーパーの販売ルートでは、消費者に届く前の流通段階で商品が止められることがあります。

阿部さんは震災の前年、南三陸町と石巻市で水産会社を創業。津波は、阿部さんの会社と自宅を飲み込みました。震災前から懇意にしていた水産会社のグループから、千葉県銚子市での仕事のオファーを受けるも、一步を踏み出せずにいました。「ここにいても仕事はむづかしい。

「将来への不安や迷いはあります。始めたことなので必ず成功するよう、みんなが上手く立ち行くように頑張らなくてはと思っています」

協議会の仲間と共に農産物、海産物、花卉、手工芸品の出品者を地元で募集し、活動に賛同した約40組が加わりました。多くは被災した方々です。オープンに向けてワーキングショップを開いて、意見を出し合いました。

3月12日..多賀城中学
・14時~16時、集会所
3月8日..高橋公園
2月26日..山王
3月16日..多賀城
3月16日又は17日..
○本ツとサロン
○農業で被災者雇用応援プロジェクト#17
3月9日(土)~10日(日)
〔南三陸〕

今後の予定